

# ボランティアの気持ちを利用した丸投げは かたちを変えた強要です

捨て猫・捨て犬を保護した人が、有名なボランティアの家へアポなしで訪問して、「捨て猫を拾いました。私は飼えないので飼って下さい」と押しつけようとする非常識な人間がいます。

おおむね、やりとりは以下の通りです。

某氏 「捨て猫を拾ったけど飼えません。貴方はボランティアですから保護してくれますよね」

ボランティア 「そんな、無茶苦茶な要求をされても困ります」

某氏 「じゃあ、もとの場所へ捨ててきます。拾わなきゃよかったんですね」

ボランティアは、捨てられることを想像しただけで胸が苦しくなり、理不尽な要求をされていると知りつつも某氏から引き取るハメになる。そうでなくても多頭保護しているのに、更に引き取るハメになり、ますます苦しい状況に追い込まれるのです。

「そんなに大変なら、引き取らなければ良いだけだろ！」と一般の方は考えます。しかし、動物が捨てられることを想像しただけで胸が苦しくなる性分を有しているからこそ、活動しているのです。

その「心」を見抜いて、捨てられた動物を拾った者が、有名なボランティアの家へアポなしで訪問し、拾った動物を飼ってくれと押しつけるのは、『かたちを変えた恐喝』だと思います。

●わたしは私財を投げうって活動をしています。どこからも一円の援助もありません。活動をしてお金をもらえるなら、保護した人こそが、どこかから援助金をもらえば良いではありませんか。

●ボランティアをやって行政などからお金がもらえるなら、無職のあなたこそ動物保護活動をしてお金をもらえば良いではありませんか。

# 誓 約 書

私は、以下の理由から、二度と同じ過ちを繰り返すことはしません。

1、私は、あなたへ押しつけたことで、保護した動物を終生飼育することから逃れ、金銭的にも、精神的にも体力的にも楽になりました。

金銭的には、終生のエサ代、ワクチン代、去勢不妊手術代、病気時の治療費をあなたへ負担させることになりました。

多頭飼育のあなたが、更に飼育頭数を増やすことで、あなたは家族からの同意を得る苦勞を強いられ、動物同士の喧嘩を避けるために室内を区切ったり、工夫を凝らさなければいけないことも理解しました。

2、私は、自分では飼えないからこそ、あなたへ動物を押しつけました。私が拾った動物を私が終生飼育をすれば、私は遺棄犯人による被害者といえます。しかし、あなたへ動物を届けただけなので、私が動物を助けたことにはならず、被害者はあなたであることを理解しました。

年 月 日

住 所

氏 名

電話番号